

佐野町制2期目

所信表明



令和4年6月28日(火)、令和4年第2回田上町定例会初日に佐野町長の所信表明が行われました。その全文を掲載します。

はじめに

この度、私は先の町長選挙において、二期目を無投票当選で再選をさせていただき、引き続き田上町長として町政運営を担わせていただくこととなりました。町民の皆様には深く感謝を申し上げますとともに、改めて町政を担うリーダーの責務の大きさを痛感し、身が引き締まる思いでございます。今回の無投票当選、この結果を謙虚に受け止めると同時に、無投票当選なればこそ一層の責任の重さをひしひしと感じているところであります。

恐らく、町民の皆様は、「二期だけでは、やりたいことも出来ないだろう」、「今抱えている様々な町政の課題をしっかりと解決してほしい」、「まだまだやり残したことがあるだろう」、「もともとと汗をかいて頑張れ」と言った私に対する叱咤激励も含まれている

ものと感じております。

二期目に向けて、今後四年間、町の舵取りを託されたからには、しっかりと町民の期待に応えられるように、身を粉にして全力で取り組んで参る所存でありますので、議員各位、そして町民の皆様には今後ともご理解、ご協力、そして一層のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

1期目を振り返って

思い返せば四年前、生まれ育った町への感謝とこの町を誰もが住んでみたい、住み続けたいと思える町に、そんな魅力のある活力ある町にしていきたい。人口減少という流れの中にあつても決して、この町を消滅させるようなことがあつてはならない。その強い思いで町民の皆様のお話をお聞きし、議会からも励ましやご指導をいただきながら全力で町政の舵取りを担ってまいりました。

これまでを振り返りますと、令和元年度は、田上町交流会館の建設・開館、国道403号バイパスの新潟方面への全線開通、令和2年度は、道の駅たがみのオーブン、田上町地域学習センターの開館など、新たなぎわいの創出に取り組んでまいりました。

しかしながら、私にとつて、この二年余りは新型コロナウイルスに翻弄され、様々な活動が思うようにならず、歯がゆい状況でありました。

新型コロナウイルスは、最近ようやく感染者数も減少傾向の兆しが見えてきました。これまでの間、医療現場等の最前線で奮闘されている方々、外出自粛や営業時間の短縮にご協力をいただいている方々に対して改めて感謝申し上げます。

新型コロナウイルスに ついて

さて、国難とも言うべき新型コロナウイルス感染症の拡大が、人々の健康や命を脅かすだけでなく、社会、経済活動にも計り知れない影響を及ぼし、社会全体を覆う閉塞感から抜け出すための出口がまったく見通せない状況の中、町民の皆様も不安が募る日々を過ごされていると思います。

現時点では、アフターコロナ社会の姿も見通せない状況ではありますが、まずは、一日でも早く町民の皆様が安心して暮らせる日常を取り戻すことができるよう、4回目のワクチン接種を7月下旬から開始できるように準備をしているところであります。

また、これまでも様々な支援策について、議会からも多大なご理解とご協力をいただきながら、幾度にもわたる補正予算を編成し、国、

県の支援制度が及ばないところを重点的に支援してまいりました。今年度の当初

予算においても、生活支援として、収入が減少した中小事業者、農業経営者、給与収入者に対し支援金の支給や、大学等に通う学生や保護者に支援金の支給を行うとともに、町の特産品の配送も行います。また、経済の下支えとして、プレミアム付き商品券・飲食券事業、湯田上温泉宿泊支援事業を実施するなど地域経済の回復を図ってまいります。その後、更なる支援策等につきまして、議会で協議をさせていただいたところであります。今後も、国や県の動向、情報を注視しながら引き続き感染状況に対応した生活支援、経済対策につきましては、議会からもご理解とご協力をいただきながら、国・県からの金額の不足が生じる場合、町からの財政出動も視野に入れないが、しっかりと取り組ん

でまいりたいと考えております。そのうえで、感染の終息状況を見ながら、社会経済活動の回復に向けた施策にも、しっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

2期目のスタート

そして、私がこれから担わせていただく二期目の町政は、令和2年度から2か年をかけて策定し、本年4月にスタートしております「第6次田上町総合計画」、この実現を目指す4年間であります。

まちの将来像「誰もがずっと住み続けたいまち」の実現に向けて、若い世代がこれからも住み続けたいと思い、みんなで子どもたちを守り・育て、高齢者が住みなれたこの町で生きがいをもつていつまでも元気で活躍できる、そして、田上町に住むすべての方の笑顔があふれるまちを目指し、町民の皆様が「夢」や「希

望」を自由に追い求めることができる環境を築いてまいります。

まちづくりのテーマである「みんなの笑顔」のためには、「あなたの願いがまちをつくり、あなたの願いがまちを変える。」という町民の皆さまの参画意識を高め、優れた人材を積極的に活用し、町民の皆様の「願い」や「想い」を町政に反映させる施策に取り組んでまいります。

それらの実現のために、6つの分野別目標を柱とした各種の施策をしっかりと進めて参ります。

また、基本構想に掲げるまちの将来像を実現するため、前期基本計画の中でも特に重点的に取り組んでいく4つの重点プロジェクトにつきましては、

いつまでも安心して 暮らせるまちプロジェクト

まず、「いつまでも安心して暮らせるまちプロジェクト」においては、

新しい公共交通「デマンド型乗合タクシー」につきまして、令和3年度より高齢者等の移動手段を確保するため実証運行を行っておりますが、なかなか利用者数が伸び悩んでいることから、地区集会や高齢者が集う機会を通じてPRに力を入れるとともに、乗降場所の増設、乗車料金の見直しにより利便性を向上させた結果、少しずつ利用者が増加しております。引き続き、より使いやすいよう運行方法や料金を見直し、利便性の向上に努めて参ります。

清掃センターにつきましては、3月の議会全員協議会において管理者である加茂市長より、今後の方針について報告がなされ、同様

の内容を、きずな6月号に掲載し、町民に周知させていただきました。これからは、清掃センターの建設用地の決定が一番の課題であります。管理者である加茂市長ともしっかりと協議をして参ります。

安心して子育てできる まちプロジェクト

次に、「安心して子育てできるまちプロジェクト」においては、

保育環境の充実では、未満児保育を希望する保護者に対応するため、ゼロ歳児が希望どおり入園できるように受入体制の構築に努めるとともに、乳児保育、延長保育、障がい児保育、広域入所委託など多様なニーズにも対応した運営を行って参ります。

子育て環境の充実では、交流会館に遊具等を設置し、天候に左右されない遊び場の提供を行うとともに、「子育て世代包括支援

センター」及び「子育て支援センター」において、妊娠初期から子育て期にわたる相談支援を行うとともに、多子世帯への学校給食費助成、乳幼児育児用品購入費助成、子育て応援カード事業などにより、保護者の負担軽減を図って参ります。

自然豊かで活力ある まちプロジェクト

次に、「自然豊かで活力あるまちプロジェクト」においては、

商工関連事業では、今年度より最大百万円を助成する起業創業支援事業を行うと同時に、これまで、議会からもご指摘をいただいております町内循環型経済の推進のために、今後、どのような施策が必要なのか、プレミアム付き商品券の発行等、取り組みを通じて研究して参ります。

また、本田上工業団地への企業誘致についても、コ

ロナ禍において、ここ数年、積極的なPRがなかなかできませんでしたが、今後は私が先頭になって、しっかりとPRしていきたいと考えております。

農業関連事業では、基幹産業である農業は、後継者、担い手不足が大きな課題であります。そんな中でも、町内には真剣に農業のことを考えて取り組んでいる若い農業経営者が何人もおられます。今年度において、そういう方々とも協力し、先進地の施策も参考にさせていただきながら、農業経営者の育成に必要な支援策について研究して参ります。

道の駅関連事業では、令和2年の道の駅開業以来、おかげさまで多くの方から訪れていたいただき、にぎわいの拠点として大きな手ごたえを感じております。

これをいかに国道403号線沿いの商店や、湯田上温泉、観光施設等に誘導を

図り、町全体の活性化につながるかが課題となっており、今年度、町内飲食店を利用していただく町内飲食店スタンプラリーや、道の駅で町内特産品の販売、展示を行う「たがみマルシェ」を実施するなど町内の他の施設と連携したイベントを実施し、道の駅のにぎわいを町全体の活性化につながる仕組みを行って参ります。

住んでみたい。住み続けたいまちプロジェクト

次に、「住んでみたい。住み続けたいまちプロジェクト」においては、

今年度から、若い世代の転入・定住につなげるとともに、町内からの転出抑制を図るために、暮らし応援リフォーム補助、マイホーム取得支援、移住者住宅賃貸支援、移住お試し宿泊事業など、住宅環境の整備の施策に取り組んでおります。

情報発信について

いくら良い施策に取り組んでも、知ってもらえなければ全く意味がありません。如何にして情報発信をしていくかが重要になってきます。

今年の1月からは、田上町公式 Twitter をはじめ、今年度は、町のホームページをリニューアルするとともに、道の駅情報発信施設等に大型モニターの設置を行います。また、町の移住サイトにおいては、地域おこし協力隊からも協力を頂きながら情報発信に力を入れて参ります。

経年劣化した 公共施設について

次に、「経年劣化した公共施設」につきまして議会からは、「町民体育館」「心起園」について、再三今後の方針について、一般質問等を受けております。その際に、「もうしばらく時間

を頂きたい」と回答しておりました。今年度中には、何とか今後の方針等考え方について、しっかりとお示ししたいと考えております。併せまして、先の全員協議会でご議論いただきました、中学校のプールにつきましても、なるべく早めにお示ししたいと考えております。

最後に

最後になりますが、一期目において特に議会対応の拙さや指導力という点におきまして、幾度となくガバナンスの欠如とその構築に努めるよう苦言を頂いてきました。

正にそれが市政にあつたので、私の大きな課題の一つであると認識しております。

就任時から町職員には、「明るい職場づくり、風通しの良い職場づくり」への協力を呼び掛ける一方で、令和2年の春から全ての町

職員との少人数での懇談の機会を設け、職員ひとり一人に直接向かい合つて語りかけてきました。また、執行内部の幹部会議でも、これまでの意思決定方法のあり方や進め方を反省し、躊躇なくその機会を設け、十分な時間をかけ丁寧に議論することを中心掛けてきました。

各課長からは忌憚のない様々な助言や批判、提言などが出てくるようになってきたと感じております。未だ道半ばではありますが、強固なガバナンスの構築に向けた手ごたえを大いに感じております。今後、私自身が先頭に立ち、強固なガバナンスの構築に向け、執行内の議論を深めてまいります。

ここしばらく、新型コロナウイルスの関係から外に出向く機会が少なくなり、直接町民の皆様の声をお聴きすることが制限されてきました。これからは各地区を回りながら大勢の方々

からのご意見や、要望を伺い、「オール田上」のまちづくりを町民の皆さんと一緒に築いていきたいと考えております。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で疲弊している町に活性を取り戻し、「誰もが住んでみたい。住み続けたい」と思ってもらえる町の実現のために全力で取り組んで参ります。

最近、大変嬉しいニュースを耳にしました。議員の皆様も既にご承知の方もいらっしゃるかもしれませんが、5月の朝のテレビにおいて、「全国のあじさい名所TOP5」で、田上町が神奈川県「箱根登山鉄道」(第5位)、鎌倉「明月院」(第4位)を抑えて、堂々、3位にランクインされたとの報道がありました。また、6月には、民間不動産業者の調査に基づく「新潟県の自治体 街のすみこちランキング」においては、1位聖籠町、2位新潟市中央

区、3位新潟市西区に続いて、第4位に田上町がランクインしたと紹介されました。

今まで、これほど田上町が注目されたことがあったでしょうか。私自身も大変驚いておりますし、非常にうれしい思いで一杯です。恐らく、にぎわいの創出を目指して整備を行ってきた、道の駅をはじめとした交流会館、地域学習センターが大きく影響していると感じております。

これまで、それぞれの施設の関係者はじめ、町民の皆様方が、様々な知恵を絞り、汗をかいて、何とかして町を盛り上げようと、賑わいを生み出そうと、これらの施設に命を吹き込んだ結果だと感じております。本当に心から感謝申し上げます。

町民の皆様からは、もっともつとこの町に対して誇りを持っていただき、是非自信を持って大いにPRを

お願いしたいと思っております。

「人を大事にする町には人は集まる」、「人を喜ばせる町には人は集まる」、「まちづくりは、そこに住む人が喜び、幸せを感じる町であれば、自然と人が移り住んでくる」と言った教えがあります。このことを肝に銘じ職員と一緒に頑張って、明るいまちづくりを目指していきます。このことがひいては、「田上町をより高く羽ばたかせることが出来る」と信じて、全力で2期目の町政運営に取り組んでまいります。

議会議員の皆様、町民の皆様におかれましては、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。所信表明とさせていただきます。

